



No.147 2019.9

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

社会が変わる。お寺が変わる。

前編

前回の『るり光』の一面「僧侶の常識を打ち破れ!!」という記事に、意外と多くの反響をいただきました。そこで、現代社会とお寺のつながりについてももう少し掘り下げて参りたいと思います。

「お寺は入りにくい」、「お坊さんとは話しにくい」。巷でよく聞かれる言葉です。もう、10年以上前になるでしょうか。カナダ人で仏教学者であるマーク・ロウ氏から日本の「ごく普通の」お坊さんの生活を知りたいとインタビューを受けたことがあります。そのやり取りの中で氏から「日本の寺院は他の国と比べて非常に閉ざされている」と指摘され複雑な気持ちになったことをよく覚えています。

「閉ざされた」理由は、寺檀制度の成立。寺院、僧侶の世俗化や世襲化。明治時代に横行した廃仏毀釈。はたまた医療、教育、福祉の専門化・細分化による寺院の役割の減少。など様々でしょうが、ここでは詳しく触れません。

いずれにしても、江戸時代まであらゆる分野で地域の中心だったお寺は一部をのぞいて、先祖を祀りその祭祀（葬儀・年忌法事）にのみ辛うじて必要性を感じさせる存在へと変わり、結果、「お寺には入りにくく、お坊さんとは話しにくい」という世間の評価ができあがりました。

ただ、マーク・ロウ氏は、平成の半ばあたりからそのようなお寺の在り様に変化が起きてきたことも教えてくれました。つまり、限られた繋がりしか残っていなかった社会（地域）とお寺との間に新たな関係が築かれはじめ、



また、存在感の希薄だった多くの僧侶が積極的に発信するようになってきたというのです（私は寺山修司をもじって「経を持って町にでよう」現象と勝手に呼んでいます）。そして、この潮流は平成23年に起きた東日本大震災によって加速し、現在、寺院や僧侶は組織として、また個の立場において、その活動の幅を大きく広げています。

仏教は、当たり前の話ですが、今を生きる私たちのための宗教です。

12月発行予定の次号では、「後編」として、より具体的に現在行われている様々なお寺や僧侶の活動をご紹介します。【真了】

宝泉寺

せともの市



あまりたくさんの品物はありませんが、お彼岸のお中日に本堂にて、**せともの市**を開きます。見学だけでも大歓迎ですので、本堂正面からお気軽にお入りください。住職がいる時間には本堂のご案内も致します。

日時 令和元年9月23日（月・祝）9時～16時

※エコバッグお持ちいただくと助かります

会場 寶泉寺 本堂



近所子どもたちが寶泉寺に一泊する「るりの会」が今年も無事終わりました。24名の参加でした。これまでは檀信徒の方を含む、お寺のスタッフで子どもたちの面倒を見ていましたが、来年あたりから地域の皆さんにお手伝いをお願いしようと考えています。



るりの会 無事終了!!

長谷寺団体参拝 もうすぐです!!

本年の10月23日～25日にかけて、真言宗豊山派総本山、奈良の長谷寺へ団体参拝に出かけます。締め切りは9月末。あと2,3名分のお席がございますので、興味のおありの方はお早目にお問合せください。

タイに行きタイ!! ②

タイ旅行記2回目（最終回）です。

前は『寺よ変われ』の著者としても有名な高橋卓志師を尋ねタイ入りし、HIV罹患者の自助グループへの訪問や、現地の僧侶ロン師が病院で宗教活動を行い、尊敬を集めていることをお伝えしました。

タイが熱心な仏教国であることは有名ですよ。なんと電車の優先席は僧侶も対象です。

といっても、タイの僧侶はお釈迦様が行っていたとおりの生活。つまり、俗世間から離れ、厳しい戒律を守り、自分の世界に入り込み、修行に邁進することを第一としていますから、前述のロン師のように、積極的に社会に関わることはとても珍しく、基本的にタイの人々は、自分たちと異なる僧侶の生き方を普段の生活の中から肌で感じ、仏教の教えやそのありがたさを吸収していくのだそうです。

また、タイでは幼少時に「短期間」の出家をすることが習慣としてあるそうで、ちょうど私たちがロン師のお寺を尋ねたときも50人ほどの小坊主くんたちが学校の授業の一環で修行中でした。これも日本では絶対考えられない光景ですね。

そうそう、積極的にお坊さんが一般の人々に関わらないとはいえ、有名寺院をのぞき、基本的にどのお寺も本堂は無料で開放されていて、誰もがご本尊を目の前にして自由にお参りできるとのこと。ちょっとうらやましい光景でした。

タイの仏教と日本の仏教。両者に異なる部分は多いものの根本となる教えと目的には違いはありません。今回の体験をしっかりと寶泉寺の活動にも活かしていきたいと思えます。【真了】



電車内の優先席標示



小坊主くんたちとお祈り合う私たち

老僧のつぶやき ⑨

このところの肩の不調で、外仕事が思うようにできないことが気になっています。特に雑木林、この辺りでいう「ヤマ」のことです。日々必要な作業や労力なども含めて将来への展望が必要と考えているからで、回を重ねて思いをお伝えしたいと思います。

先日、ふじみ野市で催された『「農」と里山シンポジウム』に参加しました。三富地域農業振興協議会（事務局 JA いるま野）主催、この地域の農業、平地林、環境、地域作りなどに問題意識を持つ行政、農協、農業者、研究者、学生などが集っていました。基調講演は全国の雑木林の歴史やその背景、現状についてなど、小僧の興味をそそるものであり展望へのヒントとなるものでした。

少し寶泉寺の歴史を振り返ります。300年の歴史を持つ三富開拓からおおよそ50年後に所沢の名主北田源蔵により新田が開かれ、その名から「北田」新田と名づけられました。寶泉寺の山号、北田山も北田新田によるものです。また寶泉寺の近隣にはいくつもの新田が開かれており、特に北田新田は三富開拓を手本にしたといわれ大きな特徴でもあります。すなわち土地は屋敷地、畑、その先に平地林と短冊状の地形とし、中央に広い道路を配し共用の井戸を掘りそして開拓民の心のよりどころとして八幡様と寶泉寺が創建されました。近郷近在から開拓民が集まり、いまでもその多くが北田地区の家々の先祖であり分家の方々なのです。

ところで寶泉寺にも境内地や本堂、庫裡と共に畑約6町歩と山林1.5町歩が与えられ、それらはお寺の護持運営に不可欠のものでした。畑は大戦後の農地改革でなくなりましたが、平地林はそのまま残り、とりわけ小僧(しょうそう)の晋山後、墓地や本堂・庫裡の敷地となり寶泉寺護持に大きな力を発揮しました。(次号に続く)

編集後記

- ・小僧今年には運転免許更新の年、70才の講習を受けてきた。このところはかなり慎重にしているつもり、胸に言い聞かせながら運転している。
- ・るりの会、今年も中学生が大勢やってきた。毎年肝試しやビンゴ大会を取り仕切ってくれるので今では大事な戦力になっている。そのあと、仲間どうしのおしゃべりが続き帰るのも遅くなってしまうが、彼らにはこんなハラハラドキドキもたまには良いかと思っている。
- ・千葉県台風15号災害、今では何日も電気がない暮らしは考えにくい。今日は追い打ちをかけるように非情の雨、ここは踏ん張って暮らしを取り戻してもらいたい。
Sep. 16. 2019 (琴)